

北海之光

6月号 北海道教区報

祝福されよ 主に信頼する人は

エレミヤ書 17章 7節

発行所 北海の光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nshk-hokkaido.jp

http://www.nshk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

「聖霊は少し暖かい」

釧路聖パウロ教会牧師
厚岸聖オーガスチン教会管理牧師
司祭 サムエル 吉野 暁 生

五月。内地に住んでいたころは連休に雪が降るなんて考えてもみななかったし、園庭の桜が月の半ばを過ぎてからようやく咲き始めるとも思っていなかった。道内でも春の遅い教会で、二〇二一年の春を迎えている。

北海道の春はいい。長く続いた冬がようやく終わって、雪が溶けだし、あちこちで花が咲き、草が芽生え、木が緑を取り戻していく。それらのことが一気に起こるからだ。それがイースターごろから顕著になって行く。まさに「大地の復活」だ。この大自然から神さまの創造の力を豊かに感じることができる。そこにイエスさまの復活も重なって、神さまへの感謝がわたしの心に満ち溢れる。
創造が神さまの力で、イエスが復活であるなら、そのあ

とに続く聖霊の力とは何だろうか。

聖霊とは「霊」であり、「息」であり、「風」であると神学校では習った。霊を表す単語「ルアツハ」にはそのような意味があるからだし、最後の「ハ」の文字が息を強く吐き出す発音の仕方をするのも、それを表しているように思う。

今、新型コロナウイルスによって、この神さまの息吹が妨げられているような気がしてしまふ。イエスが息を吹きかけて「聖霊を受けなさい」と言っても、いま至近距離で息を吹きかけたら、もはやテロ行為だ。「マスクで霊の働きが妨げられるからマスクを外そう」という主張を見たこともあるが、そういつてしまいたい気持ちはよくわかる。もちろん礼拝ではマスクを着

用して、隣の人と離れて座り、換気を徹底している。

むしろ今、聖霊の力によってなんとかわたしたちは「教会」としての体を保ち、「信仰」をつなぎ止め、「交わり」をなんとか担保している状態なのかもしれない。もし教会が、なんらかの利益や効率などを媒介にしているのだとしたら、礼拝ができなくなった時点で、集まることが難しくなった時点で教会は崩壊してしまっているのではないかと感じる。

聖霊の力はわたしたちの間にある「空気」として働いている。この空気が、わたしたちがただ座って祈っているだけなのに、わたしたちの心を穏やかに整え、神さまの方向に向かわせてくれる。そしてその空気は「少し暖かい」のではないかと思う。

五月に入って昼の気温がようやく一〇℃を超え、「やっと暖かくなってきたねえ」と内地の友人に言うとき笑われるが、一日中気温がマイナスの時期から比べれば常夏と言っ

てもいいくらいの気温だ。そう、聖霊の温度はこのくらい「暖かい」のだ。

聖霊はわたしたちの間に満ちていて、わたしたちにも働きかけてくれる。「少し暖かい」ので、今くらいの気温だと感じやすい。でも本当に周りが暖かくなると感じなくなってしまう。「あるはずなのに、よくわからない」

空気は触れないし目に見えない。でも感じることはできる。わたしたちの間に満ちていて、なくてはならないものだ。そんな聖霊の「少し暖かい」温度を感じながら、ふわと揺蕩たゆとうように流されつつ、祈りを続けていきたい。





右側が和田弓さん

—心の窓をひらく—

福音と私(二四八)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

網走聖ペテロ教会信徒

クララ 和田 弓

私の好きな聖句

「疲れたるもの我に来たれ、
我汝を安ません」

マタイ二一章二八節

この聖句は私が二〇歳前後の全寮制の看護学生時代に、人生で初めて、出来ない・分らないに出会いとても苦しく、学校をやめる〴〵と家に帰っていた時に、父からさとされました。そして退学することなくどうにか卒業し、看護の仕事の面白さや難しさを



味わいながら定年迄勤めました。洗礼・堅信(按手)は就職後、北見聖ヤコブ教会で教父母小澤夫妻のもと、藤井司祭・渡辺主教から受けました。看護学生時代を含めて一〇年間北見で過ごし、教会、教区の様々な行事に誘って頂き参加しました。その後学生と看護教員として七年間東京で暮らし、平成元年に心身共に疲弊していた両親と暮らすために帰郷しました。両親は網走聖ペテロ教会で昭和二八年一月一五日に結婚し、同年二月五日に私は長女として生まれました。母の両親(私の祖母)の親(私の曾祖父)は、北海道のそれぞれの地で聖公会の宣教師に出会い、クリスチャンになることを選択しました。六人兄弟の長女として生まれた母は網走聖ペテロ教会で幼児洗礼を受け、第二次大戦末期に母

のいとこと共に網走聖ペテロ教会で按手を受けました。父方の祖父は元軍人で、禪宗のお寺の会計も長く担当していたそうです。父の家の近所に兄弟団の伝道所があったり、母のいとこと同級生であったため教会に入りました。祖父の反対はなかったようですが、父も六人兄弟の長男で、中学二年生の時にお産で亡くなり、父の幼い三人の弟(叔父達)はそれぞれ親族に預けられ成長しました。父は受験に失敗し日本に居たくないとい

満州に渡り、戦争末期に兵隊になりシベリアに二年半抑留され帰国します。そして網走聖ペテロ教会の青年会で母と出会います。私の両親が結婚した時には父方の祖父も既に亡くなっていて、三度目の後妻になるお姑がおりました。そして長男が結婚したことから、預けられ育った叔父達が戻ってきました。母は妻として嫁として義姉として、経済的にも親族関係的にも大変な中奮闘しました。ただ嫁いだ家の中で私を生み育てることは出来ない

と父に訴え、二条離れた所古い家を借金して購入し家庭

を築いていきました。私と弟が生まれ、叔父叔母の初めての姪として可愛がられ、日曜学校に通うことは当たり前の中で育ちました。

小学校に入る頃、母方の祖父が結核を発症して、結核療養所に入ります。母の下の長男になる叔父が苦学して卒業し、社会人になったばかりの頃でした。母の奮闘は続き、家が物心付く頃には家を改造し雑貨屋をしていて、家の前の高校にお昼にはパンを売りに行っていました。そして私が小学二年生の時に父は勤めを辞め、カニの加工場を始めます。しかしウトロから届く予定のカニが届かない等が続く、事業を失敗し破産します。長男の嫁として実家の長女として奮闘し続けてきた母の精神は、そこで破綻しました。私と弟を連れ、網走川の岸壁から河を眺める母を記憶します。以後母は、精神科の入退院を繰り返しました。その後父は建設業を始めますが経営は不安定で、昭和の最後まで零細で終えます。母方の祖母は私が高校生になる頃まで、時折泊まり掛けて家事の面倒を見てくれました。母の父への愚痴に「昭子、母さ

んは和田さんに感謝していますよ」と話していました。

弟は私大卒業後札幌で勤めますが、父を助けるために帰郷します。「ゆっちゃん、親父の頭に地軸と言う棒が見えないかい」等、父と良くぶつかったいましたが、父の二年目の小さな記念会で「よく可愛がってもらった事が、一番思い出される」と語っていました。その弟も父が亡くなった二年後に、多分生涯で一番充実して幸せな結婚生活を過ごし、急逝します。父が亡くなった時に一時的に母の精神は大きく揺らぎましたが、弟の逝去に深く悲しみはしても、不安定になることはありませんでした。母の近くで生活し続けた母の一番下の弟になる叔父が別の叔父に「もう姉ちゃん、昔の姉ちゃんだからね」と母の精神の回復を伝えていました。母は晩年いつも「主に感謝」でした。私は恵まれ、またとても悲しい沢山の体験をしました。しかし思春期の苦しみを含め、どの体験も私の人生に役立っていると感じています。私は両親から福音を伝えられました。

常置委員会報告
第七回 五月一七日

《協議事項》

一、コロナ対応(緊急事態宣言発令中)に関する件
・変異株拡大により「緊急事

態宣言発令」の下での各教会の対応状況について情報集約を行った。具体的な対応策は各教会に委ねるも、今までの以上に注意を喚起する事とした。

二、稚内聖公会、厚岸聖オー

ガスチン教会に関する件
・両教会の伝道所への移行に向けての手續きを、教区会に間に合わせるべく作業を進めることとした。

三、宣教協働区・伝道教区(植松主教定年と合わせて)に関



主教室より

五月一五日、ノア上平更執事が司祭に按手されました。この日は、当初、北海道教区宣教一四七周年を祝う教区礼拝が捧げられ、その中でこの司祭按手式が行われることになっていました。しかし、コロナ感染の急拡大にともない、急きよ、教区礼拝は中止となり、司祭按手式は教役者と一部関係者のみで捧げられました。

司祭按手式に先立ち、三日間、上平執事のリトリート(静修)があり、数名の司祭(静修指導者)とともに私も参加しました。聖職への召命と応答、司祭職と

は、そしてもつと基本的な「福音とは何か」、そして福音に生

き、福音を伝えるとは…などということを中心にどこかで考え、黙想しました。また、司祭按手は神の教会の司祭団に加えられることであり、自分と同じように主によって召された司祭たちとの協働的な牧会・宣教・奉仕への責任も改めて自覚させられました。私のようにかなり昔に司祭按手を受けた者たちにも、このような静修は大事だと思えました。

さて、今回の上平更執事の司祭按手式は、私にとつて在任中での最後のものとなります。一九九七年三月、私が北海道の主教に按

手され就任して二か月後の五月、私にとって最初の司祭按手式がありました。司祭に按手されたのは更司祭のお父様の上平仁志司祭でした。初めての司祭按手式ですからその時の緊張や感動もよく覚えています。そして二四年が経ち、私の最後の司祭按手式がその上平仁志司祭のご子息へのものであったということ、二代にわたる司祭の按手に手を

おたく恵みをいただいた主教として、上平(父)司祭から上平(息子)司祭にいたるまでの二四年間に、二人を含めて一五人の司祭按手と二人の執事按手の祝福に与る者とされたことを感謝いたします。

主教 ナタナエル 植松 誠

堅信式受領
おめでとう

する件
・近く開催予定の春季教役者会の協議を踏まえ、具体的なプロセスを検討することとした。また各個教会や信徒がこの問題への理解を深め協議する方法についても検討を進める事とした。
四、春季教役者会に関する件
・七月上旬に予定する事とした。

新札幌聖ニコラス教会
マリア 丸山 侑祈
モニカ 丸山 真奈
テレサ 丸山 ルツ記
五月九日
札幌キリスト教会
リディア 津島 チイ子
五月一六日
札幌聖ミカエル教会
ハンナ 増田 祥子
五月三〇日

**十 教区逝去教役者
記念聖餐式**

七月一四日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 林 稔
一九七八年七月一日
伝道師 小川 淳 一
一九一二年七月三日
主教 渡 辺 政 直
二〇〇二年七月一〇日
司祭 今 井 四郎太
一九四六年七月一日
司祭 野 村 義 雄
一九六二年七月一四日
伝道師 黒 田 富 雄
一九九四年七月一六日
司祭 木 村 定 三
一九四五年七月一八日
伝道師 ジェーン
A・ステーブリー
一九六三年七月二四日

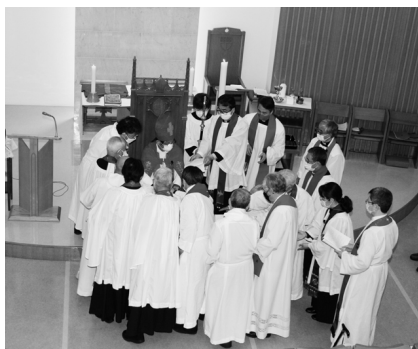


執事ノア上平更師 司祭按手式報告

五月一五日土曜日午後一時より、主教座聖堂札幌キリスト教会において、ノア上平更執事の司祭按手式が執り行われました。全道各地から会衆が参集し、この喜びの日を迎える予定でありましたが、コロナ感染拡大による緊急事態宣言を受け、植松主教を始めとする聖職団と、式の進行に関わる奉仕を行う信徒のみ出席の司祭按手式となりました。

上平更司祭の出身教会、勤務教会等の信徒一八名、教役者一九名合わせて三七名の列席でした。またこの日は、オンライン配信も合わせて行われ、視聴者数は、七〇名程でした。コロナ禍における按手式で、いろいろな制約があり、執り行するにあたり様々な困難があったことと思いますが、一〇〇名以上の人が、その時だけは心を一つにして、上平新司祭の誕生をお祝いできたことは、決して忘れぬ出来事として、その時を共有した全員の心に深く刻まれたことと思います。

文責 エリサベト 三浦千晴



公会の司祭に按手されて

司祭ノア上平更

五月一五日の午後、聖職者・奉仕者を含む三〇名程と、オンラインを通して参加くださった七〇名程(そしてそれぞれの場所で祈ってください)が多々の方々が見守ってくださる中、司祭按手の恵みに与ることが許されました。当日までの入念な感染症対策とご配慮により、式が滞りなく行われましたことを感謝致します。

五月一五日の午後、聖職者・奉仕者を含む三〇名程と、オンラインを通して参加くださった七〇名程(そしてそれぞれの場所で祈ってください)が多々の方々が見守ってくださる中、司祭按手の恵みに与ることが許されました。当日までの入念な感染症対策とご配慮により、式が滞りなく行われましたことを感謝致します。

按手前リトリートの三日間、この日までのことを振り返っていました。昨年から続く「コロナ禍」という新たな現実、私たちの今までの日常を一変させました。しかし、改めて私たちに備えられている恵みにも気づくことができました。私たちは顔と顔を見合わせることも、祈り合うことができます。離れたままでもそれぞれの場所で神の業に仕えることができます。イエスの弟子達の時代のキリストを信じる者たちは、コロナではなく、目に見えるローマという力と律法主義という束縛によって公の場で信仰を喜び合うことができました。しかし、その時を祈り合うこと、共に言葉によって信仰を保つことができ

ました。この長い苦しい時はいつか私たちが否応なしに成長させることでしょう。この痛みを共に乗り越えた経験から忍耐を、品格を、そして希望を与えられると信じています。この時を過ごす知恵が与えられるように共に祈り、神様の声に耳を傾けたいと思います。

按手式の終わりに、「レンズの向こう側」の皆さまへ向けての挨拶をしながら、この場に来られなかった家族や信徒の皆さま、そしてこのレンズの先にはもう居られない方々のまなざしを思い出していました。私が背を向けていた時も、いつも私のために祈ってくださっていたあの人々たちも祝福してくれているだろうか、と。各教区の主教様や今までお世話になった他教区の皆さまから送られてきたメッセージを反芻しながら、

私という小さな器に手が置かれたこともまた神様の示そうとして、さらに大きなみ業の一部分であることを信じ委ねます。私たち一人一人に与えられた賜物はそれぞれに異なります。一人一人が受けた恵みへの実感も異なります。しかし、それぞれが賜物を生かし、磨き上げ、時に次の世代に託して、二千年以上守り続けてきたキリストの教会が果たすべき福音の伝播を広げ続けていきたいと願っています。これからも皆さんと、また天の全会衆と共にキリストのしもべとして仕える恵みを分かち合うことができますように。ハレルヤー主と共に行きましょう！

私という小さな器に手が置かれたこともまた神様の示そうとして、さらに大きなみ業の一部分であることを信じ委ねます。私たち一人一人に与えられた賜物はそれぞれに異なります。一人一人が受けた恵みへの実感も異なります。しかし、それぞれが賜物を生かし、磨き上げ、時に次の世代に託して、二千年以上守り続けてきたキリストの教会が果たすべき福音の伝播を広げ続けていきたいと願っています。これからも皆さんと、また天の全会衆と共にキリストのしもべとして仕える恵みを分かち合うことができますように。ハレルヤー主と共に行きましょう！

司祭按手式 説教

(要旨)

司祭 ペテロ大町 信也

主教座聖堂の一八名の聖職と、奉仕する数名の信徒は、オンラインで繋がれた全道の教会の信徒・教役者の皆様と共にこの按手式に臨んでいま

私が、上平執事と濃密な時間を共にした時期が、二度あります。最初は、上平青年が米国のメノナイト大学を卒業して帰国された後、彼が二四歳〜二六歳までを札幌で過ごされた期間です。彼は母教会である聖マーガレット教会に籍を置き、私はその教会の牧師でした。上平青年は日曜学校の教師や教区の青年の諸活動のリーダーとして献身的に奉仕くださいました。その後、二年四ヶ月にわたるネパールの大学での日本語教師としての生活を経て東京の英語学校の出版部門で数年働かれました。そして三四歳で聖公会神学院に入学されます。

神学院の卒業論文のテーマは、「教会共同体における『シャローム』の実現―」修

復的正義』を求める教会形成のために―」でした。修復的正義とは、加害者を裁いて終わるのではなく、問題が起こった背景を共に探り、共同体として公正な問題解決を探ろうとする姿勢です。

神学校卒業後、新札幌聖ニコラス教会に勤務。二〇一八年の一月二二日に執事に按手され、本年三月まで新札幌聖ニコラス教会と札幌キリスト教会の牧師補を兼務されました。二年にわたり、私は札幌キリスト教会の牧師として上平執事と再び濃密な時間を過ごす事となりました。先生は、青少年に対する洗礼準備や英語礼拝の充実、留学生を中心に弁当をお配りする金曜ランチの立ち上げ、地域社会への電子媒体を用いた新たな情報発信等に力を尽くされ、教会全体から深い信頼を得ると共に、二教会の牧師補の兼務という困難な働きをよく果たされました。この間、私は上平執事の忠実な聖書主義、教派の区別を越えたエキシメニカルな視点、国際的な視野と社会的関心、几帳面な仕事ぶり等に触れる事ができまし

た。四月より新札幌聖ニコラス教会と札幌聖ミカエル教会の牧師補の兼任となられましたが、教役者不足を背景として今後も複雑な勤務形態を経験なさる事と思います。

上平先生は、今後更に宣教牧会の最前線に立たれる事を念頭に、二〇一二年に開催された日本聖公会宣教協議会が「日本聖公会へ宣教・牧会の十年」提言」の中に掲げた「ていねいな宣教・教会」という言葉に注目して、現代の司祭像について考えてみたいと思います。

●第一に、イエスのご生涯を規範・モデルとすること。

司祭は、貧しい人、困難を抱えている人、病を持つ人、孤独な人を、教会の内と外に見出し、共に祈り、心を砕いて仕え、歩みを共にする事を通して、神が貧しい者の側に立っているという事を証し続けなくてはなりません。

●第二に、閉鎖的ではなく開放的であること。
司祭は、教会の現実の姿を大切にしつつ、更に広く社会を見、その中に潜むニーズ、即ち福音に対する様々な渴望

に対して開かれている事が大切です。

●第三に、協働的であること。

司祭は、教役者同士の協働、信徒との協働をあらゆる面で模索し、新たな共同体のあり方を生み出し、教会に新しい活力をもたらす事が求められます。

●第四に、創造的、クリエーティブであること。

司祭は、従来の伝統やあり方に固執し、そこに安住するのではなく、新しい視点を持ち、新しい方法や新しい取り組みに向けて大胆でありたいと思います。特に、コロナといった初めて直面する状況の中で、創造的である事は、極めて重要です。

●第五に、傾聴的で忍耐深くあること。

司祭は、自己主張にこだわらなくて、一人一人の苦悩や悲しみに謙虚に耳を傾け続け、喜びと平安へとそれらが変容していくプロセスに忍耐強く留まり、希望への旅路を共にします。それは、真に共感的であるという事でもあります。

●第六に霊的であること。

司祭は、霊的な深みで、人々の苦悩と喜びを分かち合えるよう努めます。その事を通して、現実的な成果や評価に心奪われ、様々な葛藤と緊張に翻弄されがちな私たちは、神の国の成就という大きな展望の中に置き直されます。

●第七にサクラメンタルであるということ。

司祭は、洗礼と聖餐に神様の愛のみ業が焦点を結ぶ事に信頼を寄せつつ、教会の営みと司祭の生活のすべてが、サクラメンタルなもの、すなわちイエス・キリストのご生涯を現すものであるよう努めます。

「司祭は」という主語でお話しましたが、「教会は」「私たちは」という主語に置き換え得るものでもありません。そしてこの他にも「ていねいな宣教と教会」に関する様々な視点があるでしょう。私たちは、新司祭と共にこれらを模索し、大胆に歩んで参りたいと思います。



▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会
一年以上続くコロナ禍。感

染力の強い変異株が猛威を振るう中、パウロ教会では吉野司祭のもと、感染予防と教会生活の両立を目指して新しい取り組みが始まりました。

（吉野司祭は、大友宣さん(札幌聖ミカエル教会信徒で医師) 監修による「新しい教会生活」「新しい礼拝様式」を②の指針として纏め、信徒に配付してくださいました。例えば「⑨十字架の印を設置した席に座る」や「⑩陪餐の際、距離を取るためのフットポインント設置」など極めて具体的です。

極め付けはそれぞれの信徒名付き「時間短縮版聖餐式文」

(主教許諾済)です。これにより、礼拝時だけでなく教会置ききの祈り書からの接触感染も予防できます。

こうしてコロナ禍下での新しい教会生活を模索するパウロ教会。厚岸聖オーガスチン教会訪問やオリーブ会の開催、頌栄保育園のつづがなき運営など、一刻も早いコロナ収束を願ってお祈りを捧げるばかりです。

▽岩見沢聖十字教会

み国が来ますように。祈りのしおりを用いての昇天日から聖霊降臨日までの一日間、愛する方々の救いの為に祈る。

先月お知らせした新任の先生三名は、園に新しい風を吹き込む。周囲は刺激を受ける。市中感染拡大が続いた岩見沢。教会も園も制約された中での活動が暫く続きます。

そのような中、高齢者へのワクチン接種が開始。もう暫くの辛抱です。一般市民にもワクチン接種が始まります。日々労されている私達の国・地域の行政に携わる人びと、

医療従事者、関係者の為に祈ります。

▽小樽聖公会

毎年、昇天日近くの主日に行われている墓地礼拝は今年もコロナ禍のためにあえなく中止し、五月一六日(日)の主日礼拝の中で墓地埋葬者のためにお祈りしました。

当教会でも礼拝での奏楽補助のために「ヒムプレーヤー」を購入しました。教会の音響設備とも接続して工夫して用いられています。また、教会外での礼拝やプログラムでも活躍が期待されます。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、六月中旬の教会カフェ・ミニバザーは今年も中止することとしました。

▽新冠聖フランシス教会

現下のコロナ禍にあつて、人が集まるのは何となく憚られるこの頃です。しかし、主に教会に集まり、感謝と讚美の祈りを献げることは「不要・不急のこと」なのでしょう。うか?と考え込んでしまいませんか?と問いかけています。

す。札幌はもとより、本州各地の都市部の教会では公禱の

中止、あるいは教役者団のみでの礼拝ということになっていく、と聞き及んでいます。幸いと言っては語弊がありますが、新設では「短縮版祈禱文」を使用し、聖歌三曲を歌っています。このことを感謝しなければなりません。

▽帯広聖公会

コロナ禍にあつて、教会にも工夫と忍耐が強いられるなか、帯広も礼拝堂のネット環境を整備し、大型テレビを購入しました。一五日の上平執事の司祭接手式は、大型モニターの前で、阿部司祭と数名の信徒が新しい司祭の誕生をお祝いしました。ハレルヤ。

また緊急事態宣言発令によって、公開の礼拝が休止となり、二三日に予定されていた洗礼式と墓地礼拝が延期になりました。しかし、恵み豊かな神様が新たに最善の時を備えてくださることを信じます。

▽稚内聖公会

主に感謝。
五月九日、永谷管理牧師による最初の聖餐式。司祭に

とつても極めて印象深い礼拝であった由。例年は最果ての旅情を求めてやってくる観光客でにぎわう季節だが、コロナ禍のため町は閑散としたまま。折も折、宗谷岬沖でホッケやスケトウを漁っていた栄宝丸がロシアの国境警備隊に拿捕される。無防備の漁船にいきなり信号弾、催涙弾を撃ち込んでくるのだからひどい話だ。国境の平和のためにますます真剣に祈りたい。自生するクロユリが見ごろだ。

▽函館聖ヨハネ教会

教会から見える函館山は日々緑を濃くしている。自然も人も勢いを発散。ということとで、何年も出来なかつた教会ホール床のワックスがけを決行。延べ人数二二名(子ども含)デッキブラシやプロ用床磨き機を持ち込み、楽しみながらの奉仕。見違える輝きを見て「またやろうー!」床を見ては笑顔!

そして日曜学校は、延期になつていた「エコバッグ作り」太陽は何日目に神様が作ってくれたの?聖書のお話

も興味をもって聞いている。藤井家三姉弟は、それぞれの太陽をバッグに描き完成。

芝生とトキシラズのコントラストが美しい。花の季節到来。

▽札幌キリスト教会

教区礼拝に合わせ教会内外の清掃を行い受け入れ体制万全、と思いきやコロナ緊急事態宣言。一五日は、上平司祭の司祭按手式が聖職者団のみで挙行されました。一六日、植松主教を迎え津島チイ子さんの堅信式が行われました。コロナ禍での留学生を支援する金曜ランチを除き教会行事は休止となり、主日も公開の礼拝を休止。急遽、礼拝の様を試験的にインターネット配信、試行錯誤しながら奮闘中。二六日、赤い絨毯が敷かれた礼拝堂でペンテコステを祝う。一日も早く日常が戻り笑顔で皆が集える事を祈る。

▽札幌聖ミカエル教会

旧国際青年寮、牧師館の解体工事が始まり、郷愁を感じる間もなく、あつという間に形がなくなっていきました。

幼稚園は大部分の園児が登園できず、家庭保育の日々が続く。先生たちが方策をめぐらし奮闘中。三〇日、三位一体主日、主教様が来られ、幼稚園職員の手増田祥子さんがルーテル教会より転会、堅信の恵みにあずかりました。これで幼稚園のクリスチャン職員は七名に。同日、黒井愛理ちゃんの誕生感謝の祈り。一九日、ヨハネ中村陽三さんご逝去。草創期から教会を支え、教区に多大な貢献をされたことに感謝。魂の光明と平安を祈ります。

▽新札幌聖ニコラス教会

緊急事態の指定を受け中旬に礼拝オンライン配信化を決めたが、寸前の九日は植松主教のご巡回にて丸山家三姉妹の堅信式を多数の出席にて守ることができた。この週末の教区礼拝が中止となるなか上平執事の司祭按手式は挙行され、オンライン配信の画面を介してしっかりと見守る。

一六日より主日礼拝が礼拝堂の画像配信となり、初ミサは個々の待ち望みとなるも、

教会よりの記念品は同日の教会委員会にて司祭に贈呈できた。しばらくはオンライン礼拝となるが宣言の延長もあり、殊更に健康第一をまず願う。

▽聖マーガレット教会

五月一六日(日)、昇天後主日・「教区の日」。み言葉の礼拝。教区宣教開始一四七年を覚えて祈る。三浦聖職候補生が奨励。礼拝後、前日に行われた上平更先生の司祭按手式をネット配信で見る。上平更先生は当教会出身聖職。二三日(日)、聖霊降臨日。植松主教様司式で行う。新型コロナウイルス感染症拡大により、巡回予定が延期となり、急遽、主教様は当教会の聖餐式に出席。聖霊が「突然」一同に降りた祝日に、主教様が「突然」来られた。神様からのサプライズに出席者一同喜ぶ。

▽平取聖公会

六月に入り、庭の若葉の緑にヤマツツジの赤い花が綺麗に映えて咲いています。コロナ禍の逼塞感を一時忘れさせ

てくれます。三位一体主日を過ぎると祭壇の色も二七週間緑が続きます。パスカルキャンドルも月の第一週だけ灯されるようになります。

六月号の巻頭は五月に司祭按手された上平更師でしたが、人はなぜバベルの塔を築いたかとのことでした。先日北海道・東北三県にわたる縄文遺跡群が、ユネスコの世界文化遺産に推薦されることが決まりました。青森市の三内丸山遺跡の巨大木造構造物も、人類の共通した願いがあつて一万年続いたのでしょ

▽網走聖ヘテロ教会

五月網走は、第四主日から教会での信徒の礼拝が、コロナ感染対策で中止。網走市内も公共施設が一気に閉鎖。色々な予定行事が中止・延期の今です。コロナ禍でも、花壇の植物は順々に成長し花を咲かせています。要補修の駐車場一番の工事無事終了し、新しい白線が引かれました。今年宣教一三〇年になり、記念事業のアイデアが

▽有珠聖公会

五月二日、向井昌子さん療養先の札幌にてご逝去。札幌キリスト教会で葬儀が営まれました。向井昌子さんは、長年にわたり有珠聖公会で奉仕くださいました。召されし霊の平安のため、お祈り致します。新型コロナウイルス感染症の広がりを受け、二三日に予定されていた礼拝が中止となりました。当日は、植松主教様の巡回と併せて堅信式を予定していただだけに残念。コロナが収まり礼拝を再開できる事、主教様の巡回を心待ちにしています。

▽留萌キリスト教会

寒さが続く道北の五月、留萌管内でもコロナ感染者が多数発生したため、信徒は各自礼拝への出席を慎重に判断する状況です。月の偶教主日に

聖餐式を、他はみ言葉の礼拝を継続しています。

聖霊降臨日は金岩美穂子さんが礼拝に出席されました。窓を少し開けて換気を行い、静かな声で短時間の聖餐式を行う事が出来ました。全員でコロナを乗り切るのが当面の目標です。市内では市民へのワクチン接種が始まりました。もうしばらくの間、奮闘する一人一人が守られますように。

▽北見聖ヤコブ教会

暖かな日が多くなり、花壇には大きなチューリップが色鮮やかに咲いています。

教会のお隣りの方が逝去され、司祭は通夜に参列、祈って参りました。二一日YMC Aのお礼拝があり、司祭はサムエルの召命のお話をし、一緒に給食をいただきました。緊急事態宣言を受け、二三日と三〇日の公開の礼拝を休止。これにより、予定されていた納骨式は延期、ギデオンの報告と証しの会も中止となりました。コロナが早く終息し、いつもの日々が早く

回復しますように。アーメン
▽紋別聖マリヤ教会

ようやく花壇の花が祭壇に飾れるような季節になりましたが、気温が低くぐずついた天気が多い五月でした。二度目の緊急事態宣言が出される中、毎週み言葉の礼拝が守られています。さすがに聖歌は小声で歌うか、インターネットで聖歌隊が歌うのを黙って聞いています。幼稚園でも行事が中止や変更になり、対応に追われる日々です。規模を縮小した運動会も予定していません。子どもたちが楽しみに、そして一生懸命練習した成果を披露できることをただ祈るのみです。

▽旭川聖マルコ教会

桜の開花も例年より早く、暖かい日もありましたが、寒い日が続くこともあり、温度差のある日が続いています。マルコ教会の「桜を見る会」も、去年に続き中止になりました。しかし、頌栄保育園の庭にはこのほりが例年どおり上がりました。コロナ禍の空を元氣よく泳いでいます。

主日の礼拝も、一時期は短い聖歌を歌いましたが、今は歌わず奏楽のみです。去年は礼拝を自粛した時期もありましたが、「教区の指針」に基づいた感染対策をとりながら主日の礼拝を守ることができ、感謝です。

▽深川聖三一教会

五月、百万石をもたらす深川の水田に水が張られ、水天の如しです。農業史も疫病との戦いの歴史、農業に依存する私たちもかつてない強敵新型コロナウイルスと戦っており。医師、看護師、医学者、製薬関係者、全ての医療従事者に感謝いたします。

二三日、三〇日、主日礼拝を自粛、更に六月二〇日迄延長する。

礼拝がなくて淋しいです。礼拝は天国の先取りであり天国を楽しむ演習であるからです。世界中の人々にワクチンが与えられますように。祈願。

▽今金インマヌエル教会

五月九日、礼拝後境内地お花いっぱいプロジェクトの打ち合わせ。先月発覚した、木の

の根元の地割れにより、聖堂屋根直撃のおそれがあった樹木は、一二日に業者により無事伐採されました。入口にあったオンコも同時に伐採され、車の出入りの心配が減りました。二〇日には種だんごのうちの二百個に種をしこみ、花壇と道路沿いに植え付けました。三〇日は草刈り作業に一名。所々芽がはじめた花壇周辺をすっきりさせ、開花に備えます。残った場所は六月予定。

▽室蘭聖マタイ教会

新緑の季節を迎えました。が、終わりの見えない日々が淋しさを感じます。

八日、大町司祭の案内で、松井司祭が信徒の各家庭訪問に見える。九日、松井司祭就任。初めての礼拝聖餐にあずかる。礼拝後教会委員会。第二主日礼拝後、これ迄と同様聖書輪読会を行う事が決まる。一五日、大町司祭より急ぎの連絡あり、二回目の緊急事態宣言が北海道に発令されたため、心待ちにしていた主

教様の巡回と当日の礼拝中止との事。とても残念に思います。新型コロナウイルスの終息をただ祈るばかりです。

▽苫小牧聖ルカ教会

皆さまいかがお過ごしでしょうか。緊急事態宣言が発せられて、また日常生活が不便になりました。松井先生も少しずつ教会、幼稚園に慣れてきているようです。室蘭聖マタイ教会にも電車で行かれました。マグダラのマリヤや高橋美倫さんのご主人高橋賢司さんが洗礼・堅信の準備に入りました。美倫さんもオルターの奉仕にも加わっていただきました。また今月から第三主日は聖書勉強会(ルカ福音書)、第四主日は聖歌を二曲歌うことを、礼拝後すぐ行うことにしました。いずれも席の間隔を十分開けて短時間でを行いました。一曲でも聖歌を歌うことは、とても嬉しいことです。どうぞ松井牧師と信徒、幼稚園の小貴園長と園児のためにお祈りください。